

續詩合部類

二



須草通
舎之章

吉野弘隆藏書

續守令部類卷之五
太皇太后大進清州朝臣部守令

續守令部類卷之五

題

永曆九年七月日

寫二

梅口

柄二

時多二

織女五

月口

紅葉二

雪二

惡

述懷六

奇人

虎

大島大進清州朝臣土

續庫

吉野弘隆藏書

たはらうはともえつるまをれと
さしうしうまをれはか

六巻

た指

雅色

柄乃花ありしてうさあつる二月の
高きまよあしちありきり

右

穀類

時うしぬお花ともやあは
しきりこれ柄れうりし
たうらうあもあは

七巻

た

信物類

からうよは席外のうよ白
花の下少は柄てあは

右

顯昭

けはもこりしと柄のひれいと柄
ひしひしと柄くら花しうら
うさこれありとすし
あどあつるうらありま
はちやすくまん

八巻

たね

女房大納

くしと世をばはみやうのうらさくせん
新よをさるういのらさしれ

者

師光

楊子く世のふくせ業しちせは
音よりけりそのりともみら

いよよなこしほまよらりて
右いせしこきりともきりしれ

とせしこきりともきりしれ
たねちり

しりあしりしれ物よこせ

九巻 郭公

たね

法橋大納

時考ゆれしりきりぬとて
考の言しとぬらよまよきり

右

郭公

まをりしとゆらぬらんか
おのふりしとゆらぬらんか
たねゆらゆらぬらんか
まをりしとゆらぬらんか

病もやういふ人但此方ありて
これとよむる事ハまじ
あまし 太さむる中うし徳方
云賀陽沈方合通後ハ云し
うしてやう乃志る名にのま
あうさいあしぬらうきりじ
乃らぬ山也叶此沈沈然不感之
難又考郭云し福又考と徳方
あは在死

十卷

九指

後惠

よひのまし人をはまらしむる
明かやうてしう福れらとまれ

右

顯昭

花りしこ紅葉ハまじい友し
おりえしこしうし時考り耶

十一卷 織女

九指

後惠

七夕しぬ整りしとあはし

あしひらきくちやあしひらきん

右

相肺

そ乃らひらきくちやあしひらきん
申く袖とわさくするん

十二数

左

資隆

梅をせ乃ひらきくちやあしひらきん
んのかしらやあしひらきん

右

柳光

七夕乃ましらけり程のろくさよ

むらうくあしひらきくちやあしひらきん

十二数

左

大輔

あしひらきくちやあしひらきん
そいのかしらやあしひらきん

右

顯昭

あしひらきくちやあしひらきん
七夕いひらきくちやあしひらきん

あしひらきくちやあしひらきん

あしひらきくちやあしひらきん

十はあ

た

後惠

七子乃しつらつとわのきよとよ
梅の白き花とまきしじゆん

た

顯昭

梅一くしつらつとわのきよとよ
中とらつらつら

七子にわつらつとわのきよとよ
やまねまら

十あもあ

十たわ

清物

おしひつらつとわのきよとよ
れいそよ

しつらつとわのきよとよ
わのきよとよ

七子

新頼

七子にあすの別をさきくまに
あつよとつらつとわのきよとよ

あつよとつらつとわのきよとよ
あつよとつらつとわのきよとよ

あつよとつらつとわのきよとよ
あつよとつらつとわのきよとよ

十六あ月

十たわ

清物組

とらつらつとわのきよとよ
とらつらつとわのきよとよ

あつよとつらつとわのきよとよ
あつよとつらつとわのきよとよ

十右

寛仁

侍人のいぬもあつらんはくし
移るはうらひの月をみまへ
うまうらさをわたりあつらんはくし

十七番

た

清幽拙片

取もとらふとくすくすたはな
若りりかふふくくくく入れ

右掛

新頼

ふ乃うらまふたふらふらのま
おくくも月ふあふまふれまら

十八番

た

賢澄

え方れ月の桂乃りらのいれ
柿とつとこくくくくくく

右掛

俊惠

とのうあわらるあまのいれ
ううさふいりて柿のよれ月

た甜うらまれとくくくくく

取あまをぬくくくくくく

取んくくくくくくくく

きんぎょもあはれんあはれはついでに
あはれ

十九番

たね

大胸

うらららぬ花のらりらるれき
あはれらるあはれらる

右

頼輔

花のよれあはれあはれあはれ
ひらららあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

今下りし河をさきよれは
あはれあはれあはれ

廿番 紅葉

たね

雅重

あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

右

宣仁

下流にあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

又なまこくも何物とて

大一首

左猪

活物

小倉山ありれりみらのられき丹ハ
早のありし乃ありきとせり

右

後惠

うしくありしこいひ葉にあらあすう門
物らとはらうよ影きうよきり

さゆにありしきりし 太いあ文

まこくしはは難るし

女二首

左猪

賢澄

新くま乃まうこいれ中はき物れハ
菊うりほの花もありきり

右

空仁

花をきはるしとみせそいきりハ
花しとみすらみししめいし

ともよゆしとれとも 太い首とて

片猪

女二首

た掛

乙重掛

高ぬりみ志片のさきやともうりれい
輝いりよれをきくしうりける

右

宣仁

苑乃雲りみら此橋もきりし
松のあそもふもこころぬいさ

た方もきりし乃烟んすこく

こころも右い下をもそい物りく

えし書もわくしきりしと

いこころ

中宮

た掛

清浦

悪しこころをさしこころも

けくこころをさしこころも

右

俊惠

そらすのさうりこころも

新や乃おしこころも

さしよ優られこころも

ともおりこころも

いひこ

女七巻

家基

悲しうんほを様とのなりふは
くまをくまといふまはたよま

右

師光

我身よは思ふよは物うまは
こころなりや人のほこり
名をいふとあつらひなり

女七巻

左

俊惠

悪志なりいのちと世のあはれ

はまれふ人の心をみと

右

顯昭

ついでに思ふもさへ
くまをくまといふまはたよま
たれくまもあはれもあはれ
こころなりや人のほこり
名をいふとあつらひなり
まはれふ人の心をみと

女七巻

左

新重

我悲しむもさう乃入心のうらみ乃
ありしころあても年とさるる

右指

新頼

我悲しむもさうの浪もあ
ありしころれとさく人あ

右四河うらみしてすしあ

う

女八巻

左

後惠

わまも子をさくまらよひの婦とせ

かまのうらみとよんでうらみ

右

教頼

細父よあつら海や悲もあ乃

志けらよすうらあとうらみ

右前のあるまひわらう

ほらうし

女九巻

右指

後惠

君やあなれ我身やあなれ

きのおりしはらうらうら

右

頼輔

悪しき人衆の御まじりあはれ
人よあもも力をうらん福いよよ
たうらうらうらうらうらうらう
もろもろをうらうらうらうらう
ふいふいふいふいふいふいふ
可也

たか

清徳

わしを物とて柄も柄もけく物を
我身はうらうらうらうらうらう

右

後惠

救うてそ年人わらわらいとけり
世をうらうらうらうらうらう
若しを御難もあしと又すられ
うらうらうらうらうらうらう

可也

た

新重

ひらきんよきもうらうらうらう
わらわらうらうの白くならせ

右猪

定仁

おんをてらふ御書は我がのいふに
いふのいふにわがやうに
れもあつてもあつても
やうに

此の書

左

教札

いふとくも身のいふに
昔も老とあはれはせ

右

宣仁

かくいふに
か

おんをてらふ御書は我がのいふに

いふのいふにわがやうに

れもあつてもあつても

此の書

左

教札

いふとくも身のいふに
昔も老とあはれはせ

右

宣光

いふとくも身のいふに
昔も老とあはれはせ

とよよら〜と想〜

成りあ

た

歌集

世の〜は痛の〜を〜と
おけら後とも〜ら〜と

古掛

結感

ありひあ〜と〜と
ふす〜と〜と
と〜と〜と
たり〜と〜と

成りあ

たお

新筆

とれ〜と〜と
あ〜と〜と

右

清浦組長

〜と〜と〜と
〜と〜と〜と
〜と〜と〜と

續歌合部類卷之六

平經盛家歌合

仁安二年八月日

題

草苑

鹿

月

紅葉

忘

詞人

刑部以重家胡片

右宮亮經盛胡片

茶少乃公重胡片

右少乃通隆胡片

茶中務其補季經胡片

右宮亮入進隆補胡片

皇太后亮賴補胡片

右宮亮賴賴政胡片



尾女弁為親

若女細言漬漬

尾近侍少納言房

右近侍少納言所光

文門後少補伊行

中務少補定長

日吉神宮祝戸成付宿祿

片言神宮祝戸成平

尾家入道教長

右馬将入道実信

浦阿周梨心光

大進云俊忠

亮云顯昭

登蓮

三河大藏女房

小竹姫大藏女房

判者

太皇太后文恭大進友系信補羽衣

一番 草苑

尾持

刑部少輔家羽衣

又ししうらうらうとせしむるはひひり

若さうたうらうらうはひひりぬるうれ

太

若少納言友系清隆

林の野小いは思ふとあつとせられ

まのくすくすさうとせられぬるうれ

尾太平小いまあうらうらうとのく

あふとらうらうらうらうらうらうらう

の松乃白太平まのじいひひひひひ

心ゆくすゆれんうらたぬのい
うりいりみさうゆいであ
ふひーわ、定年ー

二書

尾膳

大亮経盛朝長

或してまゝいれまゝしうとまひくあを
ららるをうじつとれやなふあ

石

兼少お友京云重節

あさよとくあのみまはあうじとあ
ねりまはうゆみなあうーわ

このはうい又日うはまはとち
ありひーほりといあともあね
つ、わーまをる澄なるはは膳
ーわあり

三書

尾

大七お保道徳朝下

女郎あはもとしんてあまうん
ーはれまゝのあてよとあるま

七膳

小納尾

あま女房

百種のあをあまあうん

子といひあつたにうらふらふと
たふらふとつたてふとつたて
いじくまのうすくつたてとい
くつたてつたてつたてつたて
くつたてつたてつたてつたて
よつたてつたてつたてつたて
ちかふまといつたてつたて
くつたて

に書

尺

市川橋本橋本橋本

ゆく人を世への尻子よつたて
ふつたてつたてつたてつたて

大 脂

尺 少年 友 原 橋 本

つたてつたてつたてつたて
いりや尻子よつたてつたて
くつたてつたてつたてつたて
くつたてつたてつたてつたて
くつたてつたてつたてつたて
くつたてつたてつたてつたて
くつたてつたてつたてつたて
くつたてつたてつたてつたて

尺

市川橋本橋本橋本

うらむいさうやあはれなれり
しんふゆはせいにへん太ふ
うらむいさうやあはれなれり
しんふゆはせいにへん太ふ
うらむいさうやあはれなれり
しんふゆはせいにへん太ふ

七巻

尾膳

石を少お源有房

しんふゆはせいにへん太ふ
うらむいさうやあはれなれり
しんふゆはせいにへん太ふ
うらむいさうやあはれなれり

太

中務の少輔定長

うらむいさうやあはれなれり
しんふゆはせいにへん太ふ
うらむいさうやあはれなれり
しんふゆはせいにへん太ふ
うらむいさうやあはれなれり
しんふゆはせいにへん太ふ
うらむいさうやあはれなれり
しんふゆはせいにへん太ふ

八巻

尾膳

頭取

うらむいさうやあはれなれり
しんふゆはせいにへん太ふ
うらむいさうやあはれなれり
しんふゆはせいにへん太ふ

わのやうにころも花あふく人ばさ
あふのまゝにむらみ

七 尾京全入道教長

ほくしの枝とこころいそぎあま
こころあやねくれやちるん
石石今集おりてみえ落し
ぬへさ枯木の枝とこころ
とらり白あまと云奇よる思
ゆしん

一書 鹿

尾 重家朝臣

こころいそぎあまとこころいそぎ
とらり白あまと云奇よる思

七 尾盛朝臣

辰一鳴鹿の音あふくまこあま
もくろあまと云奇よる思
尾一鳴鹿の音あふくまこあま
もくろあまと云奇よる思
尾一鳴鹿の音あふくまこあま
もくろあまと云奇よる思

とや中人とわれを云はば
山并合あもゆられの僻事よ
多きわじとておよきさうゆり
るぬ

二番

尾 脇

通徳胡后

少くう段と男に一む林の夕暮
あこれそそあうしあしあう
と

七

高親

片うらふれとあやあやの席の言よ

し名しりそくそくおせうすく

尾 脇 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

尾 脇 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

尾 脇 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

尾 脇 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

尾 脇 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

尾 脇 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

三番

尾 脇

頼捕胡后

張いふとと輝の言やゆさうん

しゑよたてくハ鹿とあうり

大

顯昭

も心を創まあふ心となくさく
あさりくくくハ鹿とあうり

大あさくくくハ鹿とあうり

ちとあくくくハ鹿とあうり

却ト家歌合よや輝ハ鹿の

けりくとくくハ鹿とあうり

やうにおかゆれハ末二句ハ程

くくハ鹿とあうり

日記

大

定家

小男鹿乃たぐく多なるあはれ

たぐくハ鹿とあうり

大

季経朝臣

山あゆむとわらふと鹿やよりかん

かきもあゆむとわらふと鹿やよりかん

大ハ鹿とあうり

くのとくハ鹿とあうり

と鹿ハ鹿とあうり

ゆきねいりたこしむり
かりふなうりけりあはるらん
なまよあしぬくあち勝
みよ

尾勝

二重新伝

まぐろのそとへおれろ林のゆき
はめとんてくあく山男鹿のいぬ

右

信捕

鹿のぬれうきつるさうゆき
あらしやとのうたりとあかん

たふのねはあをれとほうち
まぐろと神あつてまてかい
うきくまかくよある新しとれ
はえぬこのされよ中に信捕
りあしと信とよあれてゆき
と母あ合をしよはたは流め
しとんいりかほしあちまてゆ
かりたのあしやとのうたちと
なかりんてゆいとあむうけり
よちりよ思あわれらあけり

新よゆりきりりひあやしそ
なりきしなわねと新合弁
を漬やしありしはもこの
たりりんを櫛約さん

六麦

凡

資隆

茶うれのみつと所くあけき
麻しつとつと忘しるさん

七 膳

登蓮

三河一之妻志の屋也人より

いさひ屋にたしやいさひ

右いさひよいさひつらよま

あしれゆりさつらんしうさ

くしうらんしういさひやいさひ

まうれりしはまきとこさ

やういさひいさひいさひ

月とわすしはん朝れいさ

やみ野ととくしういさひ

たつゆち合年いさひいさひ

ちよすいさひいさひいさひ

片...のく席のふらん

太 有房

片...のふらん

片...のふらん

片...のふらん

片...のふらん

片...のふらん

片...のふらん

片...のふらん

片...のふらん

十

片 糸河

片...のふらん

片...のふらん

太 小約長

片...のふらん

片...のふらん

片...のふらん

片...のふらん

ふしとらりそまてしうらひ
まじりてふもいさむらぬかゝ持
るゝあてゆへ

十一番

尾

改平羽尾

ささしゆのそらに舞をいさむら
ふらたよのちまをなみりたり

太膳

三見

花ふられまのまじりてはひ
とらりあくたがり林の影り星

尾そらまあひゆいさむらよ
ゆらりありふあり麻乃た
おんそのまらうらひとまよ
あられありとあひまら
は麻乃つらひてあくまら
かゝる人まはむらとあ
よゆらまのまらふらなれま
麻乃とまらまらあはけま
しんいさあ

十二番

月似重雲云 初めも款和豊盛
澄教吾とくはくはれを以
ふ北はく月光とくわとて
思ふとありてのたしとわ
てしとるれふたきりのふれ
おととてなれんこかりと
わしとれん月のおいと
てとつひはくともあらんとい
らん事とくれとくやんま
くふゆとくもとくりゆれ

八橋みんとてかりむゆら

三妻

尾物

森河

わさわさく向あき月とみせれ
好くはみよりあしかふれと

太

乙童 柳屋

月を今く山海とよひはくを
今とあきとくはくはくはく
尾物とわさくはくはくはく
よやとあきとくはくはく

のちぬとゆいづ月かあつて千野
をよあつくみさるりあもあも
旅のうらやまといひてあつた
うひのあつたあつたあつたあ
よ末のちきりうらやまあつた
しおをいあ

日記

た 勝

後 徳

月きりみひのあつたあつたあ
いつたあつたあつたあつたあ

た

通 徳 期 長

くまのあつたあつたあつたあ
やそけいあつたあつたあつたあ
たつたあつたあつたあつたあ
よあつたあつたあつたあつたあ
しあつたあつたあつたあつたあ
まあつたあつたあつたあつたあ
かのあつたあつたあつたあつたあ
なあつたあつたあつたあつたあ
いあつたあつたあつたあつたあ

此のりし物も又奇合判とより
わのいふくこいゆた〜
じきよ〜ありよみゆせは
たや捨ゆ〜ん

大書

凡

季経朝臣

ふ〜きよ〜向〜し〜
う〜ふ〜月〜夜〜ん

石 膳

実清入道

い〜杉林〜と月乃のりきん

み〜り〜あ〜し〜
凡〜る〜た〜又〜
ふ〜れ〜太の膳と中へ〜

大書

凡

信親

志〜子〜の〜
凡〜〜〜
月〜〜〜

大 膳

政平朝臣

あ〜り〜
月〜〜〜

八書

尾勝

定長

月とけとも月とけのけと 粘をよ
うさひ山のこしとけしきれ

太

伊行

うさひとも月のおられまはんまは
ららぬいひしけうぬしき
太月のあさりのうも物さなま
しきつらふ心河を下しきおる
えささしけしおるさやうなり

尾ふらふいせしゆれと勝し

ちん

九書

尾

有房

かけこく月とけとけこくはなま
舟のうらとけしきしけさな

太

成伸

ての月とけのしなまけしけ
ますこの流しりこ他とれ
尾舟のうらとけしきしきとけ

新いよとやふいよとや
乃らもや浪のうへの月ゆき
一片舟潭水よとや
せんー 大膳のうへ

十番

尺

清捕胡

とらふとふくふく
ぬくぬくくくくくくくくく
月うね

大膳

心免

あしつらふの月の影すく

よこぬくしとんえぬうね

尺さるまの ちさともあり

たりんあとのひさじん

十一番

尺膳

廻版

わしみまのあねなほれく
入まてはさる 北窓東の月

大

頼捕胡

月うねのひささる
やまのうらみもさる

下
良
月
わ
入
か
三
十二
尾
白

持

資

大
大
大

わ
舟
良
や
あ
し
え
は

いづれものどほろとん毛ゆき
なりあやし何よのしとく
ゆり

一着 紅葉

尾膳 聖家湖

やうまわるとくちんはゆらん
あしとくちんはゆらん

太 後惠

いづれものどほろとん毛ゆき
なりあやし何よのしとく

たけし姫とつりよるゆり
祐のつりよるゆり
たけしのあしとくちんはゆらん
あしとくちんはゆらん
いづれものどほろとん毛ゆき
なりあやし何よのしとく
ゆり
あしとくちんはゆらん
いづれものどほろとん毛ゆき
なりあやし何よのしとく
ゆり

とくしつとて 漢海にうりよま
をてゆらん 古あめをりる物
たりのけー さいりきり可
よりん さいりくおー さいれ
さうりくさい ことしと さいれを
尺勝とや ちかへん

二番

尺勝 経威朝長

秋さりのをえいよふの さいれ
たらりる さいれをいん

大 頼政朝長

知事らるるの さいれをいん
海をいん みらりる さいれ
大落花をいん さいれをいん
くはく さいれをいん
なりん さいれをいん
中あう さいれをいん
とよと

三番

尺 頼政朝長

向きみりよきありまへやみくせら
辰ちよもよのあまのこころの
こころよとりのれこれのあ
らみくやふたよこころま
これのしるよのあまのこ
あやしくはるよのあまの
みくれをさちもねりまみ
まはくおめくゆる

九書

辰お

成伸

あまのこころのあまのこころの
みくれをさちもねりまみ

太

登蓮

くれまよよのあまのこころの
をのよとりのれこれのあ
辰ちよもよのあまのこころの
みくれをさちもねりまみ
あまのこころのあまのこころの
あまのこころのあまのこころの

とありむをせはこつちりくとして持
めくくゆめや

十毒

尾 膳

有房

一とひいんせくふにりからまを
さみせのくまれより成りてと子

大

實清入道

久おのまいこをきくはくめとこいり
く川あめの川をわと激なりなり
たおりくをりんとゆえ大井道達

かきくよおれと我何くハ
こころくくく何く大おま
けくおまをわをとくれまん
あやまらりまにるく一を何くこと
おきりてゆくま

十一毒

尾

清浦

おけりれいほれとくま山あん
これくまあわくく人あひのこ

大 膳

三河

けしきさといえぬわりの事なりせば

大 那光

ふひーまといふまはれはれはれはれはれ
いひよてありし人あはれん
おもしろいれはれはれはれはれはれ
あつとわのゆしと下白と
うーと地うーゆり下名は後
拾遺し思ひ出さくさふとの花を
とれみまーしとれふとせぬ命
ありせんといふ方のねはああ

おはせのまぬされと母河に
いれといふある命しとま知はゆ
らすけちちとぬすはれた勝せん
人といふちちと命

二妻

大 公重親

あらしさねとありしとちちと我男を
人のきいれはれはれはれはれはれ
大 勝 高親
おもしろいといふちちと命

うりこのそしうそなるうれけ
んねのしよよりの又公片のまよ
やとつらふくもあつとたまふ
乃弁とうありぬとつらふ
ふれくおりのやられゆい
勝とつへ
三書

ん

有房

ふいーせん男の折もたきいり
あやーせよーにたつらん

太勝

季経期片

看よゆらねりむをりせん人も
これもはらふとつらふらん
んらつらあつよ然たれとす
うりーとつらとたつら
いとつらあつとつら
うらつらとつら

定書

ん

定長

うらつらとつら

あつ物... 身と云うてん

大膳

通徳お片

あつ... 世の... おら...
... 心...
... 身と云...
... 身と云...
... 命を...
... のあり...
... あり

あつ... 大い...
... 命

大い

大

後直

あつ... 我らの...
... 命

大

信捕御下

我... 命...
... 命

は約りちり

六書

尾

経威初長

いふせんふくまをまひじり
そてふなみさしりしんれり

太勝

明勝

高しおなりえし標とちんま
さみわのしとねりいあかん
尾そそわりめんつひい
まかりこしとやんちす

いあふふかへにひめ
さしとせらにまねと勝約
めん

七書

尾勝

顯旺

志海つあまのきりよあく入あま
あまのふれとあまさり

七

相改期長

命りまをいふれあまの海り
まはあまにまやま

いんしんせんりてしんまのゆ
るもやうり万葉集うらむ
そのうらうらわらひのま
とんせあつちりさあつせ
うらひをむてうらうらむ夜の
そらあつあましとておまゆ
りたうらなあつてた
くうらあつてうらうらあ
あつちりあつてうらうらあ
しうらうらうらうらうら

うらうら万葉集うらうら
いんしんせんりてしんまのゆ
るもやうり万葉集うらむ
そのうらうらわらひのま
とんせあつちりさあつせ
うらひをむてうらうらむ夜の
そらあつあましとておまゆ
りたうらなあつてた
くうらあつてうらうらあ
あつちりあつてうらうらあ
しうらうらうらうらうら

の書

尾

教長

わら神やたりみからと夜りいれ石
うらあらしきくひらきとせ

大膳

伊行

ときほぬ人のこころはけくそ
じよの神をくしるははらふ
尾いひんほのあやあや
ころし神くしとおはひくわく
ゆるみくしむ神くあやふ

やのちうらふは人のく神も
根しわくしとあはれとそ
神かことあよしとあはれとそ
ころしよしとあはれとそ
くあはれ神くしとあ

十巻

尾

小作尾

あいのくしとあはれとそ
あはれとそあはれとそ

大膳

頼捕

高しねんわつ連にたとおしよ
おのせよあつわひきおきお
これきち胸あしういん
くゆりこいされうりこりよ
ゆらんふめくさひたさ
のいぬ

十二番

尾 晴

成伸お下

あし原ふめこのりあま
みらりとあつちをうけ

七

政平親長

うしあふいとくしそ
いひよやほれており
んうりしくみゆりち
うもいよきとちくわ
しそあしほりま
うらんさうとん
あつんとまんと
尾晴お下

十二番

尾

糸河

あやまのこまをねりて君ゆへ
ぬまぬのそをえさしてちりぬ

七
大橋

尾糸入道

あまのこいあもさくぬ急ぎや
まじふささぬさだしあらん
尾ぬりてとあまのこ
みこおりしんまはらへん
あまのこさみはらひも
しんちりほくくすも

尾さくゆあめさくしと橋ゆ
あまのこさみはらへん
さくさくあまのこさく
とさくさくさくさく
あまのこさくさくさく
しんちりほくくすも
さくさくさくさく

尾糸入道

養和二年九月十日申刻書字

以勅本奉書寫校合就

慶長五年仲夏中旬 玄首

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

續詩合部類卷之七

實國家詩合

嘉應二年五月九日講之
高倉天皇御宇也



題

立春 更衣

九月盡

歲暮

後羽戀 祝

詩人

丸

大納言隆季

丸清門督實國

丸兵衛等成範

前少將公重

前大進清浦

左少將有房

前少納言資隆

右馬權頭隆信

權祢宜重保

前馬助敷頼

右

刑部卿重家

前左京權大夫孫光

前皇后宮亮頼浦

右京權大夫頼政

勅解由次官親宗

前中宮大進頼保

中勢少輔定長

左權祢宜政平

後惠法師

顯昭法師

八月盡

法善

高倉天皇降平

嘉慶二年五月廿九日

誨師 右京権大夫頼政

讀師 右馬権頭隆信

判者 太皇太后宮前大進清浦

一番の立春

厄指

隆季

人ちまぬるりゆ物とをふとりつこ
指しぬるれやあなしとこ

右

童家

あいのりなみまうさるわをかせわれ
なやわら水とらんみもめせん

ち右のちうみわあてはとあつこ

ゆかつまほしとをくくんだれあさる

飛ハなけ移ととあつらわれあし

めはしきとまろくろめれろくし
ふりたのなととまの

右

頼浦

まは月と水のあひあはす
かきしう水こくろく
りほきとまろくろ

四番

右

公重

ふはのやとまろくろく
しほきとまろくろく

右傍

頼政

免つしきとまろくろく
まは月と水のあひあはす
かきしう水こくろく
りほきとまろくろ
まは月と水のあひあはす
かきしう水こくろく
りほきとまろくろ

五番

たのむ所りくの白くはくはくを
はくはくや

七番

んお

資隆

水の面小ゆるそめそく風なまじく
まをりあうおとハ

右

頼保

いほかくだまひくふくのまじり
まあまはまくなれうと
たあふやしくまうことあはく

と右ませあふもなく又誰とく
いほかくだまひくふくのまじり
まあまはまくなれうと
たあふやしくまうことあはく

八番

ん勝

隆信

河の坂の雲れくあれうすす
こらゆやまのこゆりなうん

右

定長

うらやうねくたはくはくまあはく

ふれまにいらしむのさいぬん
んあやうくむらんくもさやふ

九番

んお

重保

と朝ふりやすいりくむらむ風了
あのうらうらうむん

右

政平

いほくとあさふれはむさ海丸
浪のうらもまきあきり
いあぢとあまこいらんれいん

あふとくさくさいふかひはひあふん
とらひひくくふりりぢぢ
先たらまはあまのゆいん
いあぢとあまこいらんれいん
くくくゆぬ

十番

ん勝

教頼

い波やあやうらむられすあらむ
と朝ふらうくむらむん

右

顯昭

いりなれと産こめくろをよしと
まらありしといひ初まん
んやとみあしとあふ海よあた
しとさゆくとあしとととと
あゆえはくまくとあしとくつと
あやとあ

一番 更衣

んや

隆季

あゆりうな月の那うととと
あゆりお交けこわととと

台

重家

さくさくあつ家とくく那うのたれ
あつさゆきとあつあつとあつ
た月う那うとあつとあつとあつ
なまもさつとあつとあつとあつ
あつとあつとあつとあつとあつ
とあつとあつとあつとあつとあつ
あつとあつとあつとあつとあつ
あつとあつとあつとあつとあつ

二番

あつひをく 苑色こころもぬきうらを
あつひをく 乃まらうり道し

名 師光

ゆきゆき乃衣とくく卯乃むと
とりあもあつひをくささひうま

乃衣ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
乃衣ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

三

成花

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

あつひのふれくさささ

右膳 頼輔

あつひのふれくさささささささささ
あつひのふれくさささささささささ

あつひのふれくさささささささささ

あつひのふれくさささささささささ
あつひのふれくさささささささささ

あつひのふれくさささささささささ
あつひのふれくさささささささささ

あつひのふれくさささささささささ
あつひのふれくさささささささささ

あつひのふれくさささささささささ
あつひのふれくさささささささささ

八番

隆信

隆信

なをふひくふわうりあはるる
とのとさくまひてそら

右

定長

長なしく中少とれそら
あやしむる面影よそら

なをふひくふわうりあはるる
とのとさくまひてそら

まじのあやまとしてよそら

とて負ぬ

九番

右

重保

今日よあはるるのたれあはるる
橋乃とそよひさくしてさ

右

政平

さくらさくまはるるあはるる
山部とまのあまらさ

んすそふひさくまはるるあはるる
きこふたりと神あはるる

うれちさうさめちりしきりあふ
うわふましよおらのすしあにあふ
あん交交あにさましていそくす
もやほすきうらく右前ふあれら
ふき後ろゆめり

十番

んお

教頼

うわさしハ花の終とくらうそ
きふわゆゆいんうらとさん

石

僧顯昭

あうりくふ花のたりしとわさうそ
とらあうぬあハ今日やまらさ

んおあおゆりしとゆふうらあ

一番 九月盡

ん

大納言

月のうハ花をそくのまことくれと
わささゆら身れ花ハあうそ

石

刑部卿

これたましゆらうし日教よ言あまハ
なり月れあしういさうらときり

乃乎まゝしゝゆゝいぢく石を
ゆゝしゝのひらりふりあはる

二番

んお

乃衛門巻

くれゆくまゆしじふにくらこらこ
秋のこらひもすゝひこをれ

右

前丸京権太夫

君のまじもものよりひとあすら
いれなまゝんまゝさしとらま

乃右やゝきこも者いじの秘も
むのはもあすらりいれくとゆ
しよりあゝとさゝしとあゆま
とんししとあゆまゝとあは
十月初はあれたのころとあふたの下
おれ福とあゝきこもあふん
ゆゝくはもあれたまゝとあ
さゝいあゝあ

三番

ん

乃共清巻

志うさけひしとあましむじきく
煉れおつりはるしうりせり

右傍

前皇太后之亮

志とくしてれくじん乃はをいせわ
とら斗りなむをさくも

んしうさけひしと有め文きよるん

とをわをれしうとくわんと云詩の

ゆふ初をしとよじあはのこしん

しうかたふしあししふじきりあ

あつしつしんあししのじきりあ

はくしひせんとらふらふ
右弁もあしうのこを勝ふし
ちとてあし

四番

ん

前少将

志うはく言ゆく煉とけり先と

那あもふもこまらやいとら

右

右京権左衛門

煉ふしとくあつめあふしん

こまらあ言とあめしうりよ

らもふ地をいふ前もわくたはい曲
とくふあらしきくゆりしうち

五番

ん

前大進

りの言と様乃らゆりとあま
お紫れあいらりしあは

右

太史君

今もこそハ様乃らとあまこそ
ふいふれのもをいありあし
んわしういふとゆらくともあし

ととらあしこは様く様もつしり
きいふらうらに名すうとゆらあは
くしそんつうのをもそハなとゆ
ゆしきまハゆへ

六番

ん

左大將

ゆはもしあうらりあはれとら
様とゆしあはゆハまさくれ

右胎

親宗

ふれてかり様のこゆらとあま

とむらのりあそびをひら
ちあそびいふらあそびして
かこむらひのりあそびふら
あそびあそびいふらあそび
いふらあそびいふらあそび

七番

ん

お出納言

りの方へ移れ行らんかこむら
あそびいふらあそびいふら

右勝

お申文へ進

をわすれしとふらあそびの
娘のあそびいふらあそび
あそびあそびいふらあそび
あそびあそびいふらあそび
あそびあそびいふらあそび

八番

ん

右馬権及

あそびあそびいふらあそび
あそびあそびいふらあそび
あそびあそびいふらあそび

右勝

中勢お出

りねとやいじふさふれをせられ
袂よりくもくれさめきれ

これとみんたふおしくこみあふよ
ちいたしやくれせめなふあつら
しこつなうらうくに寄めくふふい
ふふしとちのうあしゆたきこ

九番

ん

権祢宜

られて行なうあつらうじのひも
ふあ袂よりあそつらう

右傍

斤世祢宜

なり月いあのみやまうりくれうら
そあ乃たしこいよふうらうす

そのまもいふねたりしひんたを
我あはくくのトああくとよあう
もあしあうらほおつくしとあ
あれしとあふあつらなれたり右
うたうらまれあゆらとよ人の
白そいしとあうらむらうい
と祢あいあう袂し御

右

名京控太夫

そのうきくしりのかたねしこころ
うつくしきまゆさくあはれん
んちりあきこころあはれん
らうごきとあはれあはれん
とらりてあはれん

五番

ん縁

新大進

りごしにとはけやんりり
うつくしきまゆさくあはれん

右

後惠

行幸にそむかひんそむかひん
いほくふしあはれあはれん
んちりあきこころあはれん
あはれあはれん
ましんあはれん
勝らり倒あはれん
やうごきとあはれん
うつくしきまゆさくあはれん

六番

新大進

うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん

八番

右馬

右馬権次

うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん

右

中務少輔

うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん

九番

右

権祿宣

うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん

右

政平

うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん
うらひのしゆらうあわさしん

あきじひのよきしるしに
なまひらきさうりたるりこひあり
くふ路のり初よりわきまをしまひ
あき

十番

左

前馬助

のうりありきそり言たふ言てあ
よと指まわよひなるま

右

亮宏

言ひけとあきまの御とてまうら

きれよくれとあきまの御とて

なまひらきさうりたるりこひあり
くふ路のり初よりわきまをしまひ
あき
なまひらきさうりたるりこひあり
くふ路のり初よりわきまをしまひ
あき

一番 好朝彦

左

隆季

波のよに東とてうらまはせ

あつたの浦にりしてそらうらぬ

右

重家

命とはあふ久じいりひくして
とねはらと管と契しつひの
んあとの浦をゆかりうまねと
ゆふふとあつめ右にしんくして
のちりゆまの橋しんくをゆまんと
橋しんくしんあつれいりゆま

二番

ん橋

實國卿

あひ神く又あふりまらま
あけてうらぬ管くせは

右

師光

えうねしあふらぬあつれあつと
まふあつたあつたあつたよ
んたうくいこめ右さうあふ
しあつたあつたあつた

三番

ん

成範

うみうらぬあつたあつたあ

なまこより神のるるわあをさし

右

頼輔

ほしりしうみしまをさし玉葉に
まのこいと物そくはつ

なちうはわのうねたをこふら
神のなまはゆげさいと物よさ
あふよりなまのうらとちりめを
さそふやとちりふさ右ねうと
んく勝れもなれらり

四番

んお

女童

なまこよりあつねらのほさいであは
今ねよりいこゆとくともく

右

頼政

あさまのれ風吹ぬ人乃高のたて
ふかいかくやあはこるる
な右はふゆとまさよりいそま
ゆりかくしそつんまのりこま

五番

ん傍

清浦

じしあしと物のおにまふれ
つしそ人いりつりきり

右

後惠

わけぬともわつぬおとま
まねやたあふと物いりま
た方あしと物ぬとん
おとすこくおし胎とあれ
やすいあはあし

六番

右

有房御長

これい又まねあをせん
うつりあのもを形んき

右傍

親宗

まばさハくちまてあそつと
杉付のあしおあつりおさふ

右方きふあつりき

七番

右

資隆

いあへの人うしつとあつた
あつとも今ふくしん

右

頼保

命わすむ様このくれも待くまに
きさのなまきけのうらもまもるね

なちんらしわさ何まふりして
のゆにまふらりれりちたれり
とりいあされさらしかしてまの
みいのらあつこりひくまをり
りしめふいふしあふはゆり
のらすしうまもりたふら
よそしかこゆきやうといはれ

くやしとあてやうふに

八番

凡務

隆信

けしやとらねいそしじうめりいれ
おしとそゑのきりつに

名

定長

なれそめであつねあところと
あつねふたあしおふんと
右好相のらうし思ふ月あは
やうなりしとまあ

やまゆりしうらにちあ
いそわくもらうくこわら
わりしうらしうらしうら
やまゆり

一番 祝

んお

隆季

かみあまのあまのあまの
ちきまらとちきまらとちきまら

右

重家

あまゆふあまゆふあまゆふ

いくほの石とまらけとまらけ
けかまあけらあまれとあまれ
もるららまらけまらけまらけ

二番

んお

實國

あまゆふあまゆふあまゆふ
あまゆふあまゆふあまゆふ

右

行光

あまゆふあまゆふあまゆふ
あまゆふあまゆふあまゆふ

ねんまじりあしくしめすおんそ
のゆゑかきす

三番

左 係

成範

君の御心祈をかしこむじ候名乃
浪のまことそ十くすめして

右

頼浦

竊るめ此よりいそつとてらるる
杉宮の御心久しくうらぶ
んはあまのこあまのこくうり右

はらうめあまのこかこらるる
中さうしんあられを海にまわ

四番

左

么童

君の御心祈をかしこむじ候名乃
杉宮の御心久しくうらぶ

右

頼政

君の御心祈をかしこむじ候名乃
杉宮の御心久しくうらぶ
んはあまのこあまのこくうり右

と何とゆめりちいさゆめり
とと胸へしととくし

み

た

清補

志をいふふ人のわんまがし
子代といはれおとやういふ

右

俊恵

若代し君をいふくは日
少のこえをいふらありする

右

えぬ百代といふりてん
とふといふらふいふらふ
かしくいふらふいふらふ
くはいふらふいふらふ
てやみよ

六

ん

有房

八み代つてあはれ様さともあし
あはれあはれをいふらふ

右

親宗

ん

陌をよめあめしとてあけぬく人の
扱ふらとてしあふもへあふと

右衛門

定長

去日ふあひそあねのえうし免
りふしとせさちあさうさりきり

辰辰乃家の哥合ふよるふみ
てまこととてうしあふと

右衛門

九番

ん

重保

去日乃あめとてり祢のえうし
うつしとてあふと

右衛門

政平

去日乃あめとてり祢のえうし
あをせの輝れ月ハみうと

わつしとてあふと
可新不字

十番

瓦

敦頤

右

右

頭昭法師

續哥合部類卷之八
兼實公家親合安元元年十月十日

題

落葉

初雪

曉戀

詩人

瓦

大貳卿

李經朝臣

經家朝臣

基補

女房 丹後賴行女

女房 皇嘉門院別當房

隆信朝臣

李廣



俊惠法師

右大臣兼實云

右

頼政朝臣

兼念法師 為業道

頼輔朝臣

小侍從

行頼朝臣

仲細

平明

資忠

道因法師

清輔朝臣

判者清輔朝臣

一番 落葉

丸胎

大貳卿

本系しし乃吹所一里より新田川

那系しし乃吹所一里より新田川

右

頼政朝臣

新しし乃吹所一里より新田川

今しし乃吹所一里より新田川

凡方ありし乃吹所一里より新田川

乃吹所一里より新田川

てしし乃吹所一里より新田川

板弓やう木葉れまをあらわねく七
り家時ぬらやうのうらね

た方一具とありし 右方板留す
とあらわす家時ぬらやうのうらね
法師の板留すらしきくは月のうを
これにやといあらしてきむらりり
とあらわすしきくは法師のうを
田の方れみ文家ぬらやうのうらね
とはきくはぬらやうのうらね
しきくは板留すらしきくは法師のうを

た方ぬらやうのうらね
ふかきぬらやうのうらね
きくはぬらやうのうらね
いふぬらやうのうらね
はけぬらやうのうらね
うらぬらやうのうらね

四番

丸膳

廿房 皇立門後御當房

つしむ板ふらの葉れはぬらやうのうらね
をぬらやうのうらね

石

小竹堤

お葉あふと川の底のきんぐみよ
きれくおたうわしあしきいお
ちかりみらられと川の底といる
ふたよりなれららよたうみその事
あつちあしききれくすめららら
しおひらきしきききききききき
わやうらん

五番

たお

源家新片

庭れあり凡ふらみよらお葉おんは
らうに波とゆくららうらんれ

石

新粒

ういおき庭のあれらとまきかて
らふんもるた若のさひい
な方向れ末と葉のとりらによ
りしゆらそいあらくしうらうめす
あそやたらうしス端といこん
みしこもしと葉しゆらしうら
そんゆりちちすうこんよとにあ

くもゆるねく紅葉はさこの
あしあひさうひさし事よめさ
きたれとあ合ふとよいつとあ
われとあふとよいつとあ

六番

凡指

隆信物長

あしとあふとよいつとあ
あしとあふとよいつとあ

右

仲継

あしとあふとよいつとあ

くもゆるねく紅葉はさこの

あしとあふとよいつとあ

あしとあふとよいつとあ

あしとあふとよいつとあ

あしとあふとよいつとあ

あしとあふとよいつとあ

七番

凡指

基輔

あしとあふとよいつとあ

右

尹明

云々れ下らるるハ下れとも花のや乃
 りしぬハ何門家名の事か
 乃方流滝川をうらむくきこ
 れとすこハ何とてうらむ
 初ハ小云々れとらるるハ
 白小言及とれととつら病を
 しとゆめとみゆれと花傍り
 たり

八番

凡

李廣

三河川水邊の事案と花わけ
 浪とあつた交とてりり

右橋

賀忠

那案ら何山よりゆり橋れ何は
 とらたぬこ何と花とらん
 右方心ハ何とて何とれらり
 とらふしと何と何と何と
 しくも何と何と何と何と
 咲と何と何と何と何と

及庭のまゝとてのよきまはるる勢
りくすのいむにからりしむまは
しむくやむいむにからりしむまは
方合ハしむいむにからりしむ
こゆりしむにからりしむまは
こ

九番

ん

後惠法師

あまうまわれぬしむまはるる勢
ゆりぬまわれぬしむまはるる勢

石橋

道因法師

あまうまわれぬしむまはるる勢
ゆりぬまわれぬしむまはるる勢
あまうまわれぬしむまはるる勢
ゆりぬまわれぬしむまはるる勢
あまうまわれぬしむまはるる勢
ゆりぬまわれぬしむまはるる勢
あまうまわれぬしむまはるる勢
ゆりぬまわれぬしむまはるる勢
あまうまわれぬしむまはるる勢
ゆりぬまわれぬしむまはるる勢

あしはらうかひきくぬきさいぬこぶ
しそよめれ他乃方こころくして右
はまけのぬふあしと

一番 初宮

尾 翁

妙房 別當

あつしと津もみろん柳系う
あつしと今朝乃うの翁

右

小作 坂

わはらし我の初くはもくしき
しそよめれとあしとく

あつしと津もみろん柳系う
あつしと今朝乃うの翁
あつしと津もみろん柳系う
あつしと今朝乃うの翁
あつしと津もみろん柳系う
あつしと今朝乃うの翁
あつしと津もみろん柳系う
あつしと今朝乃うの翁
あつしと津もみろん柳系う
あつしと今朝乃うの翁

二番

尾 翁

孝徳 初宮

わがしやうの冬のもろくしにふるりしれ
まかりにむらみよの移し

石

頼輔卿臣

あれは月夜のうけにこみさうれ
こころにあもる秋の物智

なほこころにありさうふゆらとたは
すこゝちたふさぐれえてお務を

三番

た

女房 丹後

今朝うらふとせんとすともうさう

ゆえてうの家庭のあつゆさ

石橋

兼会法師

あつれのまを秋の枝とせつし
をこころのうけさのうけ

なほまを秋の葉とせつし
なほあつりいふなれこころ

んと橋りしを

四番

た橋

頼家卿臣

なほ山あを秋のうけし白あう

ありそらうのうらなういれんかき

石

新紙

つれづれとくらの方とくねえ
いれそらうのうらなういれんかき

なうとせむねのうらなういれんかき
れ方と見ゆしてむられとみえ
あやうね一技ふいあやうのうらな
いそあうてゆきしうらよふく
ふの有うやこれに良もうらな
とほりいそん鶴よとこらめれ

丸後小竹

丑番

丸後

隆信羽衣

こひられあえうたさむらめあは
おとそしそみきよえのうらな

石

仲儀

あうりうらなうのうらなういれんかき
なうとせむねのうらなういれんかき
おとそしそみきよえのうらな

丸

孝廣

霜枯燈みし 移もなまに 深茅とた
らう 鳥よりぬき じよさひく け

右

資忠

む 晴し 秋よたし 涙も けりう ぬ
枯れうらふ じよさひく け

左

ら 又右の 今すまうし けりう ぬ
けりうらふ じよさひく け

八春

丸

右大臣

初習れ 市村の ありし けりう ぬ
けりうらふ じよさひく け

右給

清輔 朝臣

けりうらふ けりう ぬ
けりうらふ じよさひく け

けりうらふ けりう ぬ
けりうらふ じよさひく け

けりうらふ けりう ぬ
けりうらふ じよさひく け

十番

尾 緒

大武御

朝まゝにたふしとみまをさし
字ありしに書れしあしり

右

杉政御信

降留りしつゝぬ色れ申しりも
宗ふやうしはそめわんとすん
な方いしうより御道はりのり
つゝ一 有字のつゝぬあれり
きありしつゝあしりしすん

いふにさめわんとすんといふ
かきあぬらんと又うしあしり
交のわらしはそめわんとすん
や書はらしてありあんとす
事れ今日しつゝあしり
まありしつゝあしり

一番 曉 意

左

右 尾 緒

らほりしと別し澄れあしり
まありしつゝあしり

石脂

法橋明臣

心より覆れ悪れ難くほめく
明徳く山乃之女の持を

石字にまほはらうと海ふく
さゆくとそくゆらにむらあか

二番

凡

後惠法師

えぬもらうみしとくさるは
物成りぬあうつとあしれ

石

道圓法師

とまれとねて君とあくふあわ
くしとてくしあうありす

た方まゆふりのとらりぬあ
こしなれとてあゆりあり

ほこしとあつらうとさうと
あさあはぬとさうとあ

ゆくとあつらうとさうとあ
あさあはぬとさうとあ

あさあはぬとさうとあ

石脂

三番

た

大貳卿

をのりあをいふはあはれし
ゆりもりあをいふはあはれし

右後

右後卿

後の事と独り夜もいふはあはれし
あはれあはれいふはあはれし

たあをいふはあはれし

あはれあはれいふはあはれし

あはれあはれいふはあはれし

と道徳母のあはれし独りあはれし

あはれあはれいふはあはれし

あはれあはれいふはあはれし

あはれあはれいふはあはれし

あはれあはれいふはあはれし

あはれあはれいふはあはれし

あはれあはれいふはあはれし

四番

た

右後卿

云ありしなり我としあしき君のいぬ
ふれしとてさしとやとわぬらん

右

兼念法師

なうんしんいふゆしんいて身白く
松の枝よりあきくれのそ
たあめらねとけううのくひあけ
しきううんちちあわのされくそ
又いひしち知んたうあしけーんを
ふせふあまらまはれしと心いさう
しんしんあはれし後りゆらん

五番

左

李経羽后

つらうあゆくはとてしああぬまふ
ゆきまぬかひの音はとれとて

右

頼朝卿

るの福ふいしおきしれおぬに
そをぬとあししあまなとてふ
物とあらしぬまらんとんす
うらうらふまらんとんす
くはあゆりしとあゆりし

六番

九折

徳家羽伝

出づれば秋のさむくまじきとき
さうぬりのあかりのあやの月

右

行状

さうぬるに秋のさむくまじきとき
あはれひくんとやういふつね
たふ月いづれもあはれひくま
あはれひくまはあはれひくま
あはれひくまはあはれひくま

七番

九折

隆信羽伝

右あはれひくまはあはれひくま
あはれひくまはあはれひくま
あはれひくまはあはれひくま
あはれひくまはあはれひくま

あはれひくまのあはれひくま
あはれひくまのあはれひくま

石橋

仲保

あはれひくまのあはれひくま
あはれひくまのあはれひくま

たささら事ぬし ちやきつらん
ゆりとりつらん さらりそよろく縁と
下息よくすう 仙道こそ勝少ゆりあり
八番

尾指

基調

あうおしくとあし かなりのとりののみを
せれよくすも ねし文うれ

石

子切

ふれくせんれ ぬらんよのそと歌うま
わいふてうろく せんとふりく

ちちのけしやとし

九番

尾

季彦

泳あらしのそと ねらうゆらうぬふ
ふのうらしあけ くれとすう

右指

資忠

明ぬとしさあけ くりうらん人さくそ
かえさあゆ ぬらうやまれうら

右のうらうらん くるまさらりてや

十番

下尾坊

廿五房 別當

名の言も我もうらぬわうつと
久しう人の氣とあつた

名

十行後

うらうらうらうらうらうらうら
今朝のうらうらの後うらうら

うらうらうらうらうらうら
右うらうら

羽の守ふらうらうらうら
まうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうら

本云

大略伺所氣色不付勝負也當座付

勝負翌日書判詞其後所付作者也

魚不存守合之後只為此具照朝臣

作者合之寂寥事也就中未入其境

之筆且為練習詠之勢不可破落着

貽後代者必可招孤辱者也早之破却

以前兩度會又以同前

本
安元元年十月廿九日

書寫之

以勅本奉書字授合流

慶長五年仲夏中衛

玄音

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

續奇公初教書之九

二十二番奇公

治承二年八月

題

閑庭秋素

長精進惠

作者

九

賴輔

維光

定宗

道清



宗月

親戚

匡範

廣玄

仲遠

仲賴

親基

右

有房

六修殿

奉書字披合元

五年仲夏中街

國書

秋臨

書

張

仔經

為廣

列覺

中納言殿

因情

辨殿

侍從殿

表濃

良賢

判者

...

...

...

...

...

...

...

...

...

亮公
顯眼

一番 閑庭秋素

丸

頼浦

秋乃花やよ秋の物とせきすり
人りゆれうり深ふ一乃里

右

有房

人もんぬ籬のわねよ吹風
秋乃きしふと作よつらるん

たたしとよやうゆよれの方
庭はとよまやあつらうゆん
たの人もんぬとよまはしめの物と
つよしと福と庭のふあつらうと
たまはしりゆらよや又えたた
に庭とよしと物とらうとよとれ
よあ深あし 古の秋の氣あし
よはしとよしと物とらうとよとれ
に勝芳とらうとよとれ

二番

丸

維光

草志けこ入らる人まら記書よ
羽衣あふらるし 婦いよにきり

右

六修殿

秋まねとあとうく今もうきいやま
とくせうかゆり花のよ風

くたふの羽つゆあうしきとつらわ
うらとつひあゆらうらしてゆいせ
あといつひくあよまにけりと作お
あつらうや昔丹の我とこもいまだい

ぬまひの秋うせいぬ人うらむし
りけさうれとらゆいすられらあ
かうとこしあ会よといそとらゆい
一責右可為勝みえ者のいまうら
てやゆいん

三書

丸指

定家

人なうはのしらすはまし海の有よ
婦いられしと程と果しん

右

信經

さうして案うし紙笥の巻れ面よ
梅をとりけりて秋のさる風
右の梅をとりけりて秋のさる風
さる風をとりけりて秋のさる風
ひくひくさる風をとりけりて秋のさる風
さる風をとりけりて秋のさる風
ひくひくさる風をとりけりて秋のさる風
さる風をとりけりて秋のさる風

竹やゆかとはくうり有るも
たふたふたふたふたふたふた
ひき

たお 道徳

月くしとさる風をとりけりて秋のさる風
梅はまじりて秋のさる風

右 乃廣

さる風をとりけりて秋のさる風
梅はまじりて秋のさる風
さる風をとりけりて秋のさる風
梅はまじりて秋のさる風

葛もくもくも汁の物りまひて 右
乃也あつれうらうりの中流り物
くまよすもくもくもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくも

五巻

尾花

家田

そめつ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

右

別覚

は〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
一巻あ〜〜〜〜〜〜〜〜〜

云よ〜〜〜〜〜〜〜〜〜

右は〜〜〜〜〜〜〜〜〜

本の巻あ〜〜〜〜〜〜〜〜

くもくもくもくもくもくもくも

くもくもくもくもくもくもくも

あな〜〜〜〜〜〜〜〜〜

こらりかきもいひはくまされたるを
らんでおとすと

津州よまゝ一葉もよもすハ朗徳集よ
ま林題よ一葉落庭と中題よそ
待と造よも中乃作之そ心死を標
日初て一葉落はけり死 みる丸
あゝ〜〜に續く〜〜されくゆよ

右つ紙おとあ〜〜すうそ〜〜此題よ
さ〜〜と〜〜ま〜〜く〜〜りきれ〜〜
い〜〜あ〜〜くゆれた人あ〜〜の

い〜〜ら〜〜いよ〜〜いお係一葉お将を死後
は〜〜ら〜〜とてゆめ七の〜〜して〜〜具
有可ら〜〜ゆらた乃指うやゆ〜〜ん

六巻

尾指

親感

さ〜〜ら〜〜い〜〜は〜〜も〜〜るぬれま〜〜ま〜〜き〜〜し
より死のなほおら〜〜り〜〜しよ

右

中納言殿

あ〜〜も〜〜せ〜〜く〜〜き〜〜ら〜〜ら〜〜り〜〜あ〜〜る庭の面よ
そ〜〜れ〜〜を〜〜め〜〜死の〜〜ま〜〜の〜〜死〜〜ら〜〜ん

みまのうら
のりよきしくまおこるん
えりき

八巻

たね

廣言

まゝくくく人とう記書あれと
庭の掃芽又枯るまよりり

右

弁殿

おどかな記書の病よみぬを
そられよちくくく枯のきし

是もくくくをくくくや

いんやきしくゆりたをりり

な記とゆりし物もゆりや

のりよきしくゆりなまゆり

ゆりよきしゆり

九巻

たね

仲遠

日然へりてまきけけり庭の面よ
吹くくゆりし梅のまゆり

右

侍従殿

いりし林のまきしやられぬ
人なりた危れ森のしりま
右より里の端乃心を無
めやされいぢりまのい
庭のなまゆり経くま
えゆりぬも 古きま
とましつまこみえん
まよゆり 古いし
みまもあうりり
ゆらん

十数

た物

仲頼

さうりくは庭の湯芽よ
後とりする林をこさ
右

表濃殿

日とつつて人とな
まよりしれ林の物
是も物めてゆりし
林かえらるる
やゆりし

まよりしれ林の物
是も物めてゆりし
林かえらるる
やゆりし

つら〜とやあらう〜とむら〜とや
よ〜とゆりれおとせら難いん
えぬ〜とゆ〜とや中〜とや

十一番

日た

親基

虫の〜とま〜とら〜とをばあ物〜と
危〜と小梅〜とさ〜とをりりりれ

右

良賢

とふ人〜とうたもり屋よお〜と風を
り〜と〜と〜と梅のま〜と〜とん

た〜と〜と〜と〜とに〜と〜とて物〜とん

一 小森風〜と〜と〜と〜と〜とや〜とゆら

萩の〜と〜と風〜と〜と風萩吹〜と

あ〜と〜と我〜と〜とみ〜と〜とてゆれ〜と

の〜と〜とあ〜と〜と〜と〜とは〜と〜とて物〜と

さ〜と〜とと〜と〜と〜と〜と〜と〜と萩の

ま〜と〜とす〜と〜と物〜と〜と定〜と〜と〜と〜とゆ

ぬ〜と〜とて〜と〜とみ〜と〜とら〜と〜とす〜と〜とれ〜と

事〜と〜とあ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と凍 ぼ拾遺

抄林とあ〜と長〜と能〜と方〜と萩風と

やい吹とくしむるふとすこあられ好く
うくうらうしむみえた出れしあふ
うりて草ぬきむたのあふをとお
ほらむじ事あらむとあふてあしく
竹笠秋乃まふらりやうくうらふ
ら年太い久林いたしよきうり
ふ申れてゆれとあふをいそ
やゆらん

一巻 長精進巻

たの

頼備

しひしよよとくじかひいしよ水
ことせありのりしとけふ死うか

右

おの房

から針がよふつ成つたとなん
いと井れあふよ行るふそそ
太方りしむた太方らうくさう
あんといしあふとせありりと
いふらいつしゆとゆん事か
ふ御祐よことせうれいひじ
あてあふし程とすいあふを

悪女しとらふみらよちつらん
たすけ乃よのちうん眼このすれ
中よちうけぬつらうゆの 太の
いくりりりりひてられりり
いにちやふいもれと又おれ 会
たとりたてふが難いゆねと又
いなるもゆもゆも 若詞とい
ひかたれとゆもあしくはゆと世歌
乃ちらとゆもちんの月と悪と
とゆもていもゆもいもゆも

お悪女しとらふみらよちつらん
ゆりあんとゆせいふとらんゆも
それまであつらひりれなすよゆい
うさゆも太のちうとゆらん

二番

右指

定家

月日といふまゝくしてすくせと
後ちねらつる事そわりらる

右

伊継

内乃ちいふまゝのゆよとゆせと

ふれりてはよしのねとていふらん

たのしみよしのねとていふらん

たのしみよしのねとていふらん

たのしみよしのねとていふらん

たのしみよしのねとていふらん

たのしみよしのねとていふらん

たのしみよしのねとていふらん

たのしみよしのねとていふらん

たのしみよしのねとていふらん

たのしみよしのねとていふらん

道信

あまんとていふらん
あまんとていふらん
あまんとていふらん

右

為廣

あまんとていふらん
あまんとていふらん
あまんとていふらん

あまんとていふらん
あまんとていふらん
あまんとていふらん

あまんとていふらん
あまんとていふらん
あまんとていふらん

よやの狭し口経れ 又えた者
とよに十こもあれ ちちよよ尸体お
うしつよよもれしつあつらひ
のこしつよよゆきとれを今と
あしつはありてやゆん ちち
あしつはあきれともしりのち
あしつとつりてつらゆり

五巻

た

業田

らあ中とりあつみちあひひ

虫食 ちちよよあれよあわ

右

列免

あめのしらよ音よ試つまらあわて
しつゝあをを日殺つらけ
ちちあつらつらあよゆねちあゆん
みえあちちあまいのちよあつら
の箱さつらとつらあつらあつら
とつらつてこのちちつらあつら
てあつら ちちあつらあつら
よとつらつらあつらあつら

とよつえうしくゆふたうく

六巻

九巻

親蔵

いふこつ門徴くつよふかよふすまをた
悪よこつろとけいしつろか

右

中納言殿

かろれあをこし程をたたりこる清水
いり井井日輪といく日とも

とらふくよそののつゆりれい持と
中納言殿 見えたる方もこれ有

つらきしゆと又もあつりゆき

らん右がくれあつこいよ

いふとこいふよふいふいふせられ

とらふもとこいふれとあつこ

程ふいゆきとわとつり

七巻

九巻

匡範

あつあつ祐乃あつこよあつこ
とらふもとこいふれとあつこ

右

同備

うしあやうらふあもたぬの地り
ゆき年

八巻

た

廣言

志めのうらよほまのなとにせまて
悪れ海よあひひらてはる

右

辯殿

いふまゝに記りしらの志わたらあ
きくぬの神乃志はくさるきり

二年百回せい井いふいふ

あけれよまよしんあゆりぬ
つらしとこしそいゆりあみえん
たごまに回つよゆりあみえんの
日教をたごまのあよひこしく
ゆい歌乃つよまゆりあみえんゆ
れとらひひらそほらあゆりあせ
やまあおほはせられてもあまゆり
あ右奇、世あおのあともれ
申よ歌れつらあひてま
ゆれしらゆらん

九巻

左指

仲遠

小早振りし結よりお移て
恵みのぬきりはうしふ

右

侍従

むらまゝよ中移移のせとぬれ
ゆ備くつと新掬下か

太中らひしてつとよまへ
しとぬれぬいとの一乃と
よ似らるとな指しみ云

十巻

あまらやとつとよまへ

あまらやとつとよまへ

あまらやとつとよまへ

あまらやとつとよまへ

十巻

左指

仲頼

川志あの日較つぬきおはとあへ
清まぬれつとぬれぬ

右

義清殿

りよまていん此のちらよまて
悪のちまひとわれうまあ

右方がうまうらうらうらうら
乃てまて病はしを程りふと
うえ竹た片下てまぬ方い事
のがうままうらうらうら
うらうらうらうらうら
まわらうらうらうらうら
れ揚うら

十一巻

れお

親基

いくとせもまうらうらうら
まられ多をうらうらうら

右

良賢

三とせまてうらうらうら
かさねねはうらうら
あのかうらうらうら
ゆくうらうらうら
うあせんとれゆうら
てのうらうらうら

